

▶教育随想

君の名は。

長期研修生 辰 崎 圭

「初めまして、私の名前は辰崎 圭（たつぎき けい）です。」

東雲小学校での研修が始まり、体育館で最初に子どもたちへ伝えた言葉がこれでした。体育館から教室への帰り道、「辰崎圭先生！もう名前まで覚えたよ！」という子どもたちの明るい声。名前を呼ばれることで緊張がほぐれ、顔がほころんでいく自分がいました。

東雲小学校にはありませんが、これまで勤めた学校では年度初め「家庭訪問」を行います。その際、保護者の方と話をすることで、私は必ず子どもの名前の由来を聞くことにしています。これまで、どのように子どもと関わり、どのような思いをもって、今日まで育ててこられたか、その一端を垣間見ることができるからです。子どもの名前の由来を話してくださるとき、保護者の方は、とても穏やかな表情になります。

そのような姿をたくさんみていると、私はいつしか、保護者の方が子どもの名前に込めた思いを、授業を通して子どもたちに伝えたいと考えるようになりました。子どもたちは、日々体も心も大きく成長していきます。その都度、今まで一人ではできなかったことが、できるようになっていきます。しかし、決して自分一人で大きくなったわけではありません。家族や周りの人々による多くの支えがあったからこそ、今の子どもたちがあるのです。しかし、子どもたちは、そのことを普段は気にもとめず、過ごしてしまっていることも多いと思います。名前の由来を通し、家族の愛情を感じ、自分はかけがえのない存在であることを知ってほしい。私はそういう願いを込めて授業をつくろうと思いました。

実際の授業は、子どもたちの心により響く内容にするために、家庭に協力を仰ぎ、名前をつけた理由やエピソードや子どもが生まれたときの家族の想いを手紙に書いてもらうことにしました。まず、教師が自作した子どもの名前に関する教材文を読み、内容を考えた後、保護者の方からの手紙をそれぞれの子どものために配布し、読むという展開で行いました。授業の最後に、「実は今日はみなさんの家族の方から手紙をいただいています。」と伝えた瞬間、子どもたちは驚きの表情をみせました。手紙を読みほころんでいく顔、そして、子どもたち・保護者共に感極まって流れる美しい涙。教師として一生忘れることができな光景となりました。子どもたちから、「わたしの名前をお家の人は一生懸命考えてくれたのだと思いました。うれしくて、涙がとまりませんでした。」「自分の名前の意味を初めて知りました。普段は照れくさくて言えないけど、自分の名前をずっと大切にしたいと思います。」など、愛情に溢れ、決意の込められた言葉で授業は締めくくられました。

私は、子どもたちに家族の想いが込められた名前に誇りをもってほしいと願っています。そして、名前に誇りをもつことは、自分を大切に、自身の生き方を大切にすることにつながると思います。1年に一度、家族で名前について話したり、考えたりする時間があってもよいのではないのでしょうか。東雲小学校の子どもたち、これからもずっと覚えておいてください。君たちは、「君の名」と共に一人一人かけがえのない存在だということを。